

会員各位

Sheridan Titman 教授特別講演会

Investor composition and liquidity: An analysis of Japanese stocks

日本ファイナンス学会は、投資論およびコーポレート・ファイナンス研究の第一人者として知られる、元アメリカ財務学会会長 Sheridan Titman テキサス大教授による特別講演会を以下の要領で開催いたします。

今回は“Investor composition and liquidity: An analysis of Japanese stocks”と題して、日本株式についての教授の最新研究を発表していただきます。

略歴（裏面）をご覧ください。教授のこれまでの歴大な研究の成果は、アメリカにおけるファイナンス研究の進展に多大な影響を与えたことについては議論の余地がありません。

貴重な機会ですので、是非ふるってご参加くださいますようお願い申し上げます。お申込みは、同封の葉書または学会 HP、Eメールにてお申込ください。定員になり次第〆切ります。

記

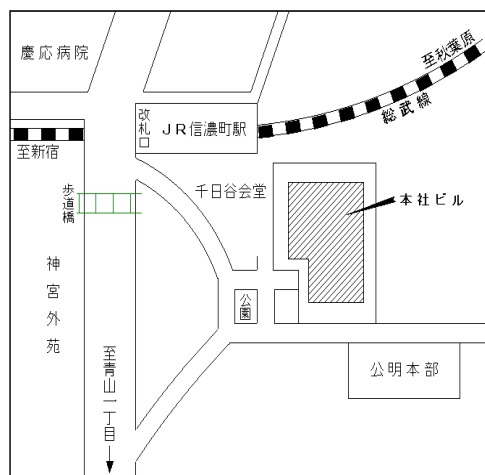
日時：2014年10月29日（水）18:00～20:00

講師：Sheridan Titman, Professor, Allister Centennial Chair in Financial Services,
University of Texas at Austin,

演題：Investor composition and liquidity: An analysis of Japanese stocks

※講演は英語で、同時・逐語通訳はありません。

会場：一般社団法人 金融財政事情研究会 2F 第1会議室（下図参照）



JR「信濃町」徒歩3分

東京都新宿区南元町19（〒160-8519）

Tel : 03-3354-2377

申込：日本ファイナンス学会 事務局（永井、小林(奈)）

160-8519 東京都新宿区南元町19 金融財政事情研究会内

TEL : 03-3354-2377 FAX : 03-3359-7947

E-mail : honbu@nfa-net.jp URL : <http://www.nfa-net.jp/>

以上

シェリドン・ティットマン教授概略

1. ティットマン教授の略歴

ティットマン教授は、コロラド大学を卒業後、カーネギーメロン大学 Graduate School of Industrial Administration (現 Tepper School of Business)において M.S. および Ph.D.学位を取得、その後 UCLA, Anderson School of Business 准教授および教授、香港科技大学教授、ボストン大学教授を歴任し、現在テキサス大学オースチン校教授である。教授はまた、1988-89年に、米国政府 Assistant Secretary of the Treasury for Economic Policy の特別顧問を務めた。

ティットマン教授は、2012年度にアメリカ・ファイナンス学会 (American Finance Association, AFA) の会長の職を務め、2013年1月の年次大会にて会長講演を行った。教授はさらに、Western Finance Association 会長および American Finance Association, Western Finance Association, Financial Management Association, Asia Pacific Finance Association (現在NFAパートナーの国際学術団体である Asian Finance Association の前身) の理事を務めた。これまでにまた、Journal of Finance, Review of Financial Studies を始めとするファイナンス分野最先端学術雑誌の編集委員を務めてきている。

2. ティットマン教授の業績概略

ティットマン教授は、Journal of Finance, Review of Financial Studies, Journal of Financial Economics, Journal of Business, Journal of Financial and Quantitative Analysis, Review of Finance など主要ファイナンス雑誌に、膨大な数の論文を発表しており、その分野は投資論およびコーポレート・ファイナンスの二分野を広くカバーしている。すなわち、資産価格付けの理論分析、投資信託の実証研究、資本構成に関する理論分析および実証分析などである。とりわけ、Journal of Finance 誌に掲載された論文は、投資論分野の中で最も優れた論文に贈られる Smith-Breeden 賞を受賞し、また Review of Finance の GSAM 賞を受賞し、Batterymarch Fellow も授与した。

ティットマン教授のファイナンス論についての幅広い考え方は、氏の数ある著書の中にも表れており、Marc Grinblatt 教授との上級ファイナンス教科書 Financial Market and Corporate Strategy では、教授が展開してきた投資理論をバックボーンとした企業評価論および企業財務戦略が展開されており、とりわけAPTを基礎としたプロジェクト評価法は、二人が Journal of Business 他において発表したマルチファクタープライシングの論文の成果に裏付けられている。また、John Martin 教授と共著の Valuation では、リアルオプション理論を駆使したプロジェクト評価法による、オリジナルな企業評価論が展開されている。

3. 講演要旨

1990年代に多くの改革が日本の株式市場について行われた結果、外国人投資家にとって魅力ある市場となり、そのため投資家分布の変化が、市場流動性にどのような影響を与えたかは、重要な研究テーマである。今回、報告する結果は、外国人投資家がより多く保有している銘柄が、内生性を考慮したパネル分析から、より活発に取引がされている一方で、マーケットマイクロストラクチャー変数や短期非系統的ボラティリティ、リバーサルにより変化を測ったとき、より非流動的となっており、また全期間においてほぼその傾向がみられるという発見である。

同論文は、米国 Social Science Research Network の下記URLから download 可能である。

Jiang, Hao and Titman, Sheridan and Yamada, Takeshi, Investor Composition and Liquidity: An Analysis of Japanese Stocks (August 2014). Available at SSRN: <http://ssrn.com/abstract=2129417> or <http://dx.doi.org/10.2139/ssrn.2129417>